令和5年度　羽島郡二町教育委員会　教育指針「方針と重点」（後期評価12月末）

対R4冬 ■↗↗ ■↗ ■→ ■↘ ■↘↘

岐南町立西小学校

様々なかかわりの中で学び、社会の一員として貢献できる社会人の育成
～「家庭・社会の期待に応え、夢と自信を持ち、可能性に挑戦するために必要な力の育成」と「豊かな人間性や能力を発揮して活躍し、学び続ける、活力と連帯感のある人づくり」～

評価内容　評価…４段階 A:75～100%　B:60～74%　C:40～59%　D:0～39%）

No	基本目標	施策	重点内容	評価内容（教師用）	評価	%	児童生徒用評価内容	評価	%	改善の手立て	保護者評価内容	評価	%
目標1	夢と自信をもち、可能性に挑戦するために必要な力の育成	①何を学ぶかをはっきりさせ、その学びの過程を質的に高める授業	ア:ねらいや評価規準を明確にし、指導・評価・補充のサイクルを意識した責任ある指導(「授業マニフェスト4」の徹底)	□ねらいや評価規準を明確にし、達成のため、学習状況見届けの方途をもって授業に臨み、授業終末には児童生徒の学習姿勢や教科の学び方を評価することで、児童生徒が自らのよさや成長を実感できる授業づくりに努めている。	A	75.0%	□自分の考えや、できるようになったことや分かったことを、実演や発言などで仲間に伝えたり、ノートに書いたりしていますか。	A	78.6%	マニュフェスト4の特に「学習の見通しをもち、子ども同士で考えを深め合う場をつくります」を重視し、全教科で授業のねらいを明確にし、その時間に学ばせたいことを絞り込んで活動を仕組む。また、1時間の授業の見通しを視覚的に示すこと、1時間の中心場面を確認することを徹底する。	お子さんは、自分の考えや、できるようになったことや分かったことを、仲間に伝えたり、ノート 等に書いたりしていますか。	B	66.2%
			ウ:授業→復習→授業のサイクルを習慣化し、学力を高める家庭学習の充実(家庭学習の習慣化)	□学校の授業と家庭での学習のつながりができるよう、タブレットパソコンも活用しながら、家庭学習について指導の充実に努めている。	B	70.8%	□進んで家庭学習に取り組み、できることや分かることを確かめたり、増やしたりしていますか。	A	77.9%	カド・ケド中心の宿題から、タブレットやパワーアップノートを活用したより主体的な家庭学習に段階的にシフトを進めている。夏休みの宿題も廃止し自主学習中心へ転換した。	お子さんは、進んで家庭学習に取り組んでいますか。	B	64.3%
		②豊かな心の醸成	ア:物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める授業	□児童生徒が自己の生き方についての考えが深まるよう、単位時間の授業の指導方法の改善に努めている。	A	75.0%	□自分の思いや考えと仲間の考えや思いを比べたり、仲間の思いや考えを聞いたりして、自分の思いや考えを広げたり、深めたりしていますか。	A	80.7%	全教科、全領域において、ペア学習やグループ討議、ロイロノートを使った交流など、仲間と関わり合い、考えを比べたり、深めたりする場面を増やしていく。	お子さんは、人の考えをよく聞いて、自分の考えを話していますか。	B	68.3%
		③運動に親しみ、進んで健康安全に取り組む指導	イ:タイムマネジメントでき、自らの健康管理ができる指導	□家庭と連携し、望ましい生活習慣づくりが構築できるよう指導している。	A	77.1%	□十分な睡眠をとり、朝食を食べて登校していますか。	A	87.2%	栄養教諭による食育の授業や養護教諭による健康づくりの授業や啓発を通して、児童と保護者の意識を高めていく。	お子さんは、家で十分な睡眠をとり、朝食を食べて登校していますか。	A	87.9%
		④国際理解教育の推進	ア:小学校の外国語教育の実践(小学校) イ:All Englishによる授業の実践(中学校)	□英語を使って進んでコミュニケーションを図ろうとする活動を位置付けている。(小中) □生徒の発達段階を踏まえたAll Englishの授業を行っている。(中)	B	62.5%	□英語を使って進んでコミュニケーションをしていますか。 □英語の授業では、ほぼ英語だけで学習しようと努めていますか。(中)	B	69.1%	ALTや英語専科の授業でのオールイングリッシュの楽しい活動時間を増やしていく。	お子さんは、英語の学習を楽しんでいますか。	A	75.3%
		⑤特別支援教育の充実	ア:一人一人の障がいの状態やニーズを把握し、可能性を伸ばす指導 ウ:保護者、医療、福祉等関係機関との多様な連携協力を通して、一人一人の育ちを支援する教育の充実	□特別な支援を要する児童生徒に対して、具体的な配慮事項を明らかにし、それに応じた学習活動や環境の設定、働きかけ方等、指導支援を工夫改善している。	A	76.9%				特別支援教育コーディネーター主催によるケース会や支援計画の実践、特別支援教育主任によるミニ職員研修を重ね、実践的な支援に生かしながらスキルを高める。また、管理職が担任と支援員との連携を積極的につなぐ。			
目標2	社会の持続的な発展を牽引できる多様な力の育成	①キャリア教育・立志教育の推進	イ:一人一人の願いを支援し、自己充実感につなぐ指導	□児童生徒の言動のよさを認めるとともに、その言動に至る願いや思い、過程等のよさを価値付けている。	A	88.5%				特活の研究指定の強みを生かし、キャリア教育の視点に立った学級活動の実践的研究を進める。			
		②リーダーを育成し、児童会や生徒会の充実を図る	ウ:学級や児童会・生徒会役員等との懇談を充実し、願いを実現につなぐ指導	□児童会等、リーダーの願いを学校内で共有する場を位置付け、目指す姿の具体を共有する等して、学級・学年・学校全体でその実現に向け支援している。	A	78.8%	□よりよい学級をつくろうと、目標に向かって仲間と共に話し合ったり、活動したりしていますか。	A	80.5%	児童会・学年リーダーが明確な目標をもって仲間への働きかけを行い、学級等でそれについて話し合い、協力しながら努力していく過程を大切にした指導を丁寧に行っていく。	お子さんは、学校でよりよい生活を送ろうという気持ちで、取り組んでいますか。	A	78.0%
		③各学校の特色ある活動の推進	イ:児童生徒が自治的で自立的な活動をつくりあげる指導	□「柱となる活動」の目指す姿の具体を児童生徒と共通理解し、児童生徒が自慢とする活動になるよう、常に願いや具体的な目指す姿と活動を結びつけて価値付けている。	A	75.0%	□学校の自慢を言えますか。その自慢をもっと自慢にできるよう活動していますか。	A	76.6%	「あじさい活動」を継承発展させていくための具体的な取り組みを児童自身が創り出し、実践して成果を確かめ、みんなで喜び合う過程を大切にした指導を丁寧に行っていく。	お子さんは、「あじさい活動」を意識して生活していますか。	B	73.1%
		④児童生徒の自己指導能力を高める指導	ア:児童生徒に寄り添い、よさを見つけ伸ばす積極的な生徒指導の推進	□毎日の生活や学習、各種行事等の教育活動を通して、児童生徒のよさや成長を見出し、評価することで、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める指導援助に努めている。	A	86.5%	□自分が立てた目標に向かって、仲間とかかわりながら粘り強く取り組んでいますか。	A	76.5%	諸活動の中で教師が児童にかける言葉の在り方を見つめ、児童一人一人を尊重し、アイメッセージを使った肯定的な働きかけを全教員が心がけるようにする。	お子さんは、自分で立てた目標の実現に向かって粘り強く取り組んでいますか。	B	67.6%
		⑤いじめ・不登校防止や解決のための継続的な指導	ウ:いじめの早期発見と組織を生かした継続的な指導	□「いじめ」に係る人権感覚を高め、児童生徒の状況を把握するとともに、意図的な取組による個の居場所づくりと集団の絆づくりに努めている。 □児童生徒の状況の把握や早期の相談の機会の設定等、未然防止策を全職員で取り組んでいる。	A	88.5%	□仲間が嫌だなと感じることを言ったり(インターネット上を 含む)、したりせず、仲間がうれしいな、もっとがんばりた いなと思うようなことを言ったり、したりしていますか。	A	83.0%	いじめ防止基本方針を全教職員が熟知して指導・支援に当たることができるよう研鑽を積むと共に、「いじめについて考える日」の充実、いじめ0アンケートやにこにこアンケートの確実な実施と素早い対応を徹底する。また、ネットモラルにいての授業を全学年で再度行う。	お子さんは、仲間が嫌がることを言ったりしたりせず、仲間がうれしい、がんばろうと思うことを言ったりしたりしていますか。	A	78.2%
目標3	生涯学び、生かし、活躍できるようなスポーツ・文化など学びの環境の整備	②年齢を縦に繋いだ地域の教育力の向上	エ:学校運営協議会を柱とした地域と共にある協働の学校の仕組みづくりの充実	□地域学校協働活動推進員と連携し、児童生徒が地域や地域の方と関わることができるように働きかけている。	B	62.5%	□地域の様々な行事に進んで参加したり、地域の方とふれ合ったりしていますか。	A	76.7%	150周年記念事業や、社会福祉協議会の事業を始め、参加機会のある地域の行事を、放送等を使って地域の方の言葉で直接宣伝をする。	お子さんは、地域の行事に進んで参加したり、地域の方とふれあったりしていますか。	B	66.2%
		③家庭の教育力の向上	ア:ボランティア手帳の活用と一家庭一ボランティア実践	□学校や家庭・地域のボランティア活動の意義を語り参加するよう児童生徒に働きかけている。 □ボランティア手帳を効果的に活用させている。	B	72.9%	□学校や家・地域でのボランティアに進んで参加していますか。	A	75.1%	ボランティア手帳の取組を積極的に進め、がんばっている児童を認め励ましていく。	お子さんは、学校や家・地域でボランティアに進んで参加していますか。	B	62.8%
		⑥豊かな心を育む教育の推進	ア:今日的な人権課題に基づいた人権教育の推進	□児童生徒に寄り添い、適切な言動で指導・援助している。	A	84.6%	□学校や家や近所で「ぽかぽか言葉」を使って話していますか。	A	81.0%	「ぽかぽか言葉」について話し合う学活を全学級で設けると共に、学年や児童会の取組を通して、人権を尊重する気風を作っていく。	お子さんは、学校や家・地域で相手に応じた「ぽかぽか言葉(思いやりある あたたかい言葉)」で話していますか。	B	70.6%
目標4	学びや育ちを支え、誰もが社会の担い手となるセーフティネットの構築	①健康な体つくりの推進	ウ:学校生活管理表の作成と活用	□学校生活管理表をもとにして、該当児童生徒をはじめ、配慮を要する児童生徒を確実に把握し、保護者との面談等を通して確実に対応している。	A	93.2%				アレルギー対応の必要な児童を確実に把握し、特に給食時の誤食を防ぐための三重チェックを徹底する。			
		②学校防災体制の充実	ア:場・時・役割や想定を幅広く考え、工夫して行う防災訓練(命を守る訓練等)の実施	□場や時などを幅広く想定した「命を守る訓練」等を実施する目的や意義を自分事として捉える指導や、各教科での防災に係る指導等を行い、年間を通して、児童生徒自らが危険を回避する力を高められる指導を行っている。	A	87.5%	□「命を守る訓練」等では、自分の命は自分で守ろうと、自分で考えて行動したり、進んで真剣に取り組んだりしていますか。	A	91.3%	様々な設定での訓練を行うと共に、防災・減災についての知識を学ぶ時間を発達段階に応じて全学年で実施する。また、教職員自身がどのような動きをすべきか判断する力をつけるためのより実践的な職員研修を行う。	お子さんは、学校の「命を守る訓練」などをいかして、自分の命を守るためにどう行動すればいいか考えていますか。	B	72.9%
		③いかなる状況下でも「自分の命は自分で守る」意識の醸成	ア:自転車の安全利用の推進、損害保険への加入等、交通安全意識の高揚	□全教育活動を通して、交差点ではドライバーとアイコンタクトするなど、「自分の命は自分で守る」意識を高める指導を行っている。	A □	85.4%	□自転車に乗るときは、必ずヘルメットをかぶっていますか。 □交差点では、「ドライバーとのアイコンタクト」に心がけていますか。	A A	89.7% 87.9%	3年生対象に行った交通安全教室の内容を、全校児童へ伝えたり、交通安全についての知識を学ぶ時間を発達段階に応じて全学年で実施したりする。	お子さんは、自転車に乗るときは、必ずヘルメットをかぶっていますか。 お子さんは、交差点で、「ドライバーとのアイコンタクト」に心がけていますか。	A B	94.7% 72.2%
		④学校施設設備の整備	イ:学校安全点検の実施と確実な修理	□「手」、「目」、「耳」で確かめるなど、遊具や運動施設の安全について確実に確認している。 □普段あまり使用しない設備も含め、設備すべての危険箇所・修繕箇所の状況を把握し、確実に対応している。	A	79.2%	□けがをしないように約束を守って、学校の遊具、サッカーゴールなどの施設や道具を使っていますか。	A	89.7%	施設、遊具の点検を「手」「目」「耳」で確実に行い不備があれば直ちに報告して対処するよう徹底すると共に、安全な過ごし方・遊び方指導を丁寧に行う。	お子さんは、けがをしないように、約束を守って学校や公園の遊具や道具などを使って遊んでいますか。	A	83.8%
		⑤情報活用能力の育成	ウ:ICT及びデジタル教材等の効果的な活用による学びの充実	□興味・関心を高め、「できた、分かった授業」につなげるため、デジタル教科書や電子黒板、タブレットパソコン等を積極的に活用している。	A	76.9%	□電子黒板や書画カメラ、タブレットパソコンなどを使ったことで、より勉強が分かるようになりましたか。	A	83.9%	毎週のICT推進委員会を通して、苦手な教員であっても積極活用できるようスキルアップを図る。授業でロイロノートやぎふwebラーニング等を積極的に導入する。	お子さんは、タブレットパソコンを進んで学習に活用していますか。	B	65.4%

保護者評価内容	評価	%
学校は、子どもが理解できるようきめ細かな授業を行っていますか。	B	72.1%
学校は、学習習慣が定着するよう、家庭学習の取組方や内容について説明したり指導していますか。	B	71.2%
学校は、明るいあいさつが広がるよう指導していますか。	A	78.4%
学校は、教育方針や子どもの様子を、学校だより・授業参観・学校のHP等で伝えていますか。	A	83.1%
学校は、保護者や地域の方々と連携して教育活動を進めていますか。	A	79.4%
学校は、美しく整った学習の場となっていますか。	B	73.5%
学校は、子ども・保護者からの相談に丁寧に対応していますか。	A	79.0%
学校は、子どものよさを見つけ、認めていますか。	A	82.9%
学校は、子どもたちの安全について配慮していますか。	A	81.5%

評価の方法

○回答者が、各項目についてＡ～Ｄの４段階評価をする。

○Ａ＝４点、Ｂ＝３点、Ｃ＝２点、Ｄ＝１点として算出した各項目の合計点の、満点に対する割合を％で求める。

○各項目の総合評価をＡ～Ｄの４段階で表す。（Ａ：７５～１００％、Ｂ：６０～７４％、Ｃ：４０～５９％、Ｄ：０～３９％）

○令和４年度の同一項目との比較を色分けして表す。

↑↑ +5%以上　↑ +2.5～4.9%　→ -2.4～+2.4%　↓ -2.5～-4.9%　↓↓ -5%以上